



# ソウル駐在員通信

vol.21

クレアソウル事務所 所長補佐 菊池さやか

アンニョンハセヨ！（一財）自治体国際化協会ソウル事務所（通称：CLAIR, Seoul（クレアソウル））に派遣されている、菊池さやかと申します。今回は、私が関わった業務を3つご紹介したいと思います！

## ■ 茨城県の魅力と方言を伝授！

7月11日、国際交流基金ソウル日本文化センターの「日本の地域とことば」講座で、日本語を学んでいる韓国人41名を対象に茨城県の魅力と方言について講演して来ました。

茨城県の代表的な観光地である偕楽園や袋田の滝、国営ひたち海浜公園や豊富な農林水産物などを紹介するとともに、茨城の方言について実演を交えて紹介。講演後には、霞ヶ浦の観光帆引き船に関する質問や、隣接する栃木県の方言との類似性についても言及があるなど、興味深く聞いていただけた様子でした。

アンケートによれば、回答者34名全員が「今回の講座を通じて茨城県に対する関心・理解度が向上された」と回答。また、自由記載欄には「茨城県に全く興味を持っていなかったが、今回の講義を通じて茨城県についての知識が増えた気がする。」、「まだ茨城県には行ったことがないが、ちょっぴり行きたくなった。」、「先生の愛郷心が感じられる講義だった。」との感想をいただき、茨城のイメージアップに寄与することができたと実感し、嬉しく感じました。



## ■ アジア青年国際交流事業 ～Asian Beat Fes 2017～

7月29日、仁川広域市において、日中韓3カ国の青年アマチュアバンドやダンスチーム等がパフォーマンスを交わす「アジア青年国際交流事業～Asian Beat Fes 2017～」が開催されました。

2010年、茨城空港の開港を機に、アジア地域における若い世代の交流促進を目的として日本（茨城県日中友好協会）と中国（上海万博事務局（※現在は中国国際青年交流センターが主催））の共催で始まった同事業は、翌年から韓国（現・仁川観光公社）を加え、以降3カ国の持ち回りで毎年開催しています。

今回、日本からは茨城県日中友好協会の森秀男理事長をはじめとする同協会青年委員会のスタッフや青年ボランティア等24名、出演者19名に加え、菊地健太郎茨城県副知事及び山岸国際課長が参加し、私もイベント前日から当日にかけて2日間同行させていただきました。

【 7月28日 】

前日の晩餐会では、日中韓3カ国の参加青年たちが、それぞれの国を象徴するような伝統舞踊や流行曲などを披露し合い、とても楽しく和やかなムードに包まれました。



日本チームは昨年流行した「恋ダンス」とピコ太郎の「PPAP」を披露。特にPPAPは韓国でも良く知られており、会場が一気に盛り上がりました！



終盤、親指と人差し指を交差させてハートマークを作り、笑顔で記念撮影！

【 7月29日 】



当日、本番前の昼食会で、日中韓の代表が固く握手！  
三国の友情を誓うとともに、イベントの成功に向けて団結しました。  
(右：菊地茨城県副知事、中：ジョン・ソンス仁川市副市長、  
左：王希宏中国国際青年交流センター共益協力部長)

そして遂に、Asian Beat Fes 2017 が開幕！



韓国、日本、中国の順に来賓祝辞。  
音楽及びダンスという共通の文化を通じて、  
互いの国に対する理解や友情を深めることに大きな期待が寄せられました。



韓国の女性アイドルユニットA-Dailyによる祝賀公演。熱気が高まります！  
続いていよいよ、出演者たちのパフォーマンスがスタート！



まずは韓国のトップバッター、ノリヤンジン！



続いて日本のトップバッター、BEAT SOLDIER!



そして中国のトップバッター、RISE OVER DOWN!

残念ながら時間の都合で全てのパフォーマンスを見ることは叶いませんでしたが、どのチームも個性に溢れ、パワー漲る素晴らしいパフォーマンスでした。参加青年にとっても、良い刺激になったことと思います。

#### 【 その他 】

イベントの前後に、仁川国際空港やパラダイスシティ、松島コンベンシア、仁川経済自由区域広報館などを訪れて仁川市の先進的な取組を視察しました。

「仁川国際空港」は、世界空港サービス評価で、地域別（アジア太平洋）、規模別（年間旅客4,000万人以上）の2部門で12年連続1位を獲得しています。来年1月には平昌五輪に備えて第2ターミナルが完成予定となっており、更なる進化に目が離せません。

また、非常に興味深かったのは、日本の地方空港との連携事業も行っているという点です。日本の自治体とタッグを組んで、アジア地域から日本への観光客の誘致を共同で行い、両地域の空港を利用する商品を造成する旅行会社、利用客を対象に様々な支援メ

ニューを用意していると言います。

自治体選定の基準をお尋ねしたところ、共同によるメリットが見込める空港を一本釣りしているというお話でした。いずれ茨城空港と仁川空港を結ぶ路線が復活し、更には仁川空港とタッグを組んで連携事業を展開できるようになれば素晴らしいと思います。



続いて「パラダイスシティ」は、2017年4月20日にオープンしたばかりの、韓国初のIR施設<sup>1</sup>です。出資比率は、セガサミー（日本）が45%、パラダイスグループ（韓国）が55%。カジノ（外国人のみ対象）の他、ホテル（770室）、コンベンションホール、商業施設、スパ、ジムなどの複合施設となっており、敷地面積は10万坪ほど。複数のWINGから構成されており、家族向け、カジノ利用者向けなど、対象によって分離できるよう工夫がされています。今後、隣接地にゴルフコース等の建設も予定されており、複合リゾートとしての幅もますます拡大。仁川空港から車で10分ほどですので、仁川空港を利用して韓国に来る外国人旅行者にとっては、非常に便利な立地となっています。韓国人にとっても、普段とは違うリッチな気分を味わいながらリフレッシュができる、まさに「リゾート」として生まれ始めているようです。



続く「松島コンベンシア」は、2008年に開業したコンベンション施設で、仁川経済特区区域庁が所有し、仁川観光公社が運営しています。展示場とボールルーム、会議室

<sup>1</sup> IRとはIntegrated Resortsの略で、カジノをはじめ、ホテル、レストラン、商業施設（ショッピングモール）、劇場・映画館、アミューズメントパーク、スポーツ施設、MICE施設（国際会議場・展示施設）等が一体になった複合観光集客施設（統合型リゾート）を指す。

(最大2,000名規模)を備え、アジアで初めてLEED(建築物環境性能評価システム)認証<sup>2</sup>を受けました。展示場は文化ホールとしての利用も可能で、音響に優れた素材・構造となっています。国際的な会議は年間500件程度あるそうですが、厳密な意味での国際会議(3か国、50人以上)は250件程度とのことでした。来年度に拡張工事を実施予定であり、工事後の規模は現状の2倍にもなる(現状57,000㎡が110,000㎡に拡張。展示場には900ブース設置可能となる)そうです。



最後に、「仁川経済自由区域広報館」(Gタワー33F)では、松島(ソンド)地区を眼下に眺めながら松島の歴史展示を視察しました。

仁川経済自由区域(IFEZ)は、政府の北東アジア経済センター戦略の中核となる地域として、2003年に韓国で初めて指定されました。経済自由区域(FEZ)は、国内他地域と異なる制度下において、外国の投資企業に対する税制優遇、自由な経済活動、質の高い行政サービス、便利な生活環境が構築された国際企業都市です。松島地区(仁川空港、港湾を含む)、永宗(ヨンジョン)地区、青羅(チョンラ)地区の計132.9平方キロが指定され、松島地区はグローバルビジネス拠点として、永宗地区は空港・物流の中心地として、青羅国際都市は先端・金融事業のハブとして位置付けられています。



### 【 感想 】

日中韓3カ国の間には様々な課題もありますが、「アジア青年国際交流事業」は、国際交流の重要性を肌で感じることができる、とても意義深い事業であると感じました。

<sup>2</sup> LEEDとはLeadership in Energy and Environmental Designの略で、米国の非営利団体であるUSGBC(U. S. Green Building Council : 米国グリーンビルディング評議会)が開発・運営する環境配慮型建築物の格付けシステムである。建物の環境性能を示す世界標準とも言える。

イベントを通して、3カ国の青年同士が相互理解と友情を深める姿を目の当たりにしました。また、3カ国の主催者及び関係者同士が感謝と尊敬の念を抱き、笑顔で言葉を交わし、協力し合う姿も印象的でした。このような交流の積み重ねにより、人と人、組織と組織が友情を育ててゆくことが、ひいては国と国の関係改善にも繋がってゆくものと考えます。



## ■ エアポートセールス

8月9日～10日の日程で、県庁の森住空港対策監以下2名が訪韓し、チェジュ航空、ティーウェイ航空、エアソウル、アジアナ航空、イースター航空の5社に対して行ったエアポートセールスに同行しました。茨城空港の、コンパクトで首都圏からも近い（約80 km）利便性、人口700万人を有する北関東エリア（栃木・群馬）へのアクセスの良さや豊富な観光資源についてPRをしたところ、関心を示してくれた航空会社もあり、韓国ー茨城便復活への足がかりになったのではないかと思います。今後、韓国の航空会社や旅行会社向けのファミツアーを実施するなど、継続的かつ積極的に働きかけてゆくことで、就航に繋がればと思います。

